

2012年12月3日

【 日本女子大学 】 大学に対する評価結果

相互評価委員 津田塾大学 情報科学科 来住伸子

**【総 評】**

日本女子大学 2012 年度三女子大学連携相互評価「自己評価報告書」により、複数キャンパス、複数学部による困難さにも関わらず、FD活動を積極的に取り入れていく努力を知ることができ、感銘をうけた。各学部、各研究科でさまざまなFD活動を実施しており、とくに、他大学でもあまり実施していない次のような活動には、学ぶべき点が多い。

- ・ 「学生による授業評価」報告書の公表と、授業評価「速報」の作成。
- ・ 他大学でベストレクチャー賞を受賞した非常勤講師による公開授業
- ・ FDネットワーク「つばさ」への加盟

また、教育面だけでなく、若手の専任教員の研究助成も行っており、FDを教育面のみに限定しがちな状況のなか、広範囲な活動を行っていることを高く評価したい。

**1. FD活動の目的**

**(所見)**

学部FD委員会内規および大学院FD委員会内規にFD活動の目的が明記されている。また、学則第2条では「教育研究水準の向上を図り、教育研究活動等の状況について、不断の自己点検及び評価を行う」と明記されており、FD活動の目的は、全教職員に周知されていると考えられる。

**(優れている点)**

FD活動の目的が、学部FD委員会および、大学院FD委員会内規に明記されている。

**(努力課題)**

委員会の内規として明記されているが、学部レベルでは内規そのほかの形での明記がされていない。学部長の諮問機関の「学部を考える会」などによって、各学部のFD活動は実際に行われているので、その成果を生かした明文化が望まれる。

**2. FD活動を担う組織**

**(所見)**

学部および大学院において、学部FD委員会および大学FD委員会がそれぞれ組織さ

れている。また、FDを支える事務組織としては、学園活動評価・改革推進室がある。

#### (優れている点)

上記のように、学部FD委員会、大学院FD委員会が組織され、両委員会で協議された内容は、各学部の教授会や各研究科で最終決定される体制が整備されている。

#### (努力課題)

全学的な組織が立案するFD活動が、各学部に浸透するまでに至っていないという課題がある。複数学部がある大学においては、専門分野の違いもあり難しい課題だと考えられる。その対策として、「学長、副学長オフィスアワー」を設けるなどを検討中との記述されており、難しい試みだと思いがぜひ実施していただきたい。

### 3. FDの活動状況

#### (所見)

総評においても記述したが、授業評価アンケートを全学で実施し、集計結果を公表し、速報している点は、高く評価したい。

また、FD関係講演会やFD事例研究会を実施することにより、FDに関する情報を積極的に教員に伝えている。本学をはじめ、授業参観を実施していない大学もある状況において、公開授業を実施するだけでなく、授業参観を義務化も検討中というのは、非常に先進的な取り組みである。FDネットワーク“つばさ”への加盟も、学外の先進的な取組を知る手段として役立ったのではないかと推察した。

#### (優れている点)。

- ・ 授業評価アンケートを全学で実施している。アンケート項目が具体的である。
- ・ 授業形式でない科目、実験、実習を主とした科目については、別のアンケートを検討中など、アンケート項目の改良にも取り組んでいる。

#### (努力課題)

- ・ 授業評価アンケート、FD講演会、公開授業など、全学レベルで積極的なFD活動を展開しているが、各学部の取り組みについては、ばらつきがある。統一する必要がある取組と、独自のままでよい取組の区別が必要と思われる。
- ・ 特に授業評価アンケートは、全学部で統一できる項目と、各学部、各科目で独自に調べたい項目があるのは止むを得ないので、今後も改良が必要と思われる。

以上